

私たちが一致団結するときです

瑞浪市の十代の女性の新型コロナウイルス感染が判明しました。これまで感染防止に努めた瑞浪市民の努力をたたえたと共に、今後もその努力を継続させなければなりません。そして、その上で、「我々市民が今こそ一致団結しなければならぬ」と私は思います。

人の行き来が激しい現代社会において、感染者を出さなかったこれまでが奇跡的だったと言えるのかもしれない。皆さんは家と学校の往復が行動範囲の中心でしょうが、大人はそういうわけにはいきません。仕事で市外や岐阜県内を飛び回ったり、県の枠を飛び出し日本中を駆け回ったりしている方がいます。また、逆に、そういう方と接して仕事している方もいます。

そう考えると、いつだれが感染してもおかしくない状況が、私たちの周りにはあると言えるでしょう。我が家にも名古屋まで通っている息子がいます。駅という多くの人が往来する場所での仕事ですので、私は親としても心配しています。彼自身も仕事の特殊性を考えて、日々家と仕事場だけの往復に徹し、感染防止には十分気を配っているようです。

だれもがそういう努力をしてきた上での、今回の市民の感染です。たまたまその方が感染したに過ぎないと私は思います。感染する可能性はだれにもあるのですから。したがって、結果だけでその方をつらい思いにさせることがあってはならない、私はそう考えています。

先に私は、「我々市民が今こそ一致団結しなければならぬ」と書きました。感染した方を守ることで瑞浪市民が一致団結したいものです。

守るといっても、その方を直接守ることはできません。私たちは今回感染された方の心の負担を大きくしないように、私たち自身が今後も感染しないことです。そのために一層感染予防に努めることです。それがその方を間接的に守ることになると私は思います。

更には、今回の感染についてあれやこれやと詮索（せんさく）しないことです。他の人が味わったことのない身体的なつらさや心理的な苦しみに耐えて、その方は回復しようと今がんばっているはずです。心から応援することです。（七月二十一日 記）